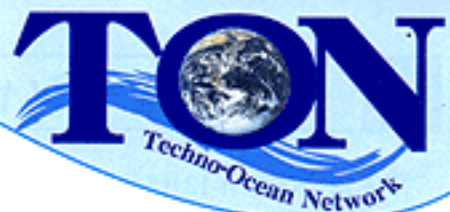


Techno-Ocean News



September 2001

創刊号

海洋の国際ネットワークを

テクノオーシャン・ネットワーク会長 大庭 浩



人類は、環境・食糧・エネルギー資源等諸問題の解決を海に求めざるを得ない時代を迎えています。海といかに共存共栄していくか、多様な分野の方々の英知を結集することがますます重要になってき

ています。このような社会のニーズに対応し、広く海洋に関わる人と情報の交流、そして次世代を担う青少年の育成を促進する活動組織として、テクノオーシャン・ネットワーク (TON) を創設いたしました。

このテクノオーシャン・ネットワークは、1986年から神戸を舞台として8回の開催実績を有する「テクノオーシャン」の関係者が中心となり、「テクノオーシャン」を真にわが国ならびアジア太平洋を代表する国際コンベンションに発展させるとともに、海洋の国際的、学際的なネットワークの構築を目指し、設立したものです。

このたび本会のニューズレター「Techno-Ocean News」を創刊しますが、このニューズレターと今後開設する予定のホームページの内容を充実させ、ネットワーク活動が海洋に関わる人々の輪を広げ、皆様のご期待に沿えるように努力してまいります。

来年は「テクノオーシャン2002」、そして2004年には「OCEANS」との同時開催が予定されております。これらを節目のビッグイベントとしながらも、海洋関係者のネットワーク拡大に向けて日常活動を充実させていきたいと考えておりますので、ぜひ本会にご参加いただくとともに、皆様方のご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

壁を倒して、世界へ

テクノオーシャン・ネットワーク理事長 酒匂 敏次



この20年の間に日本のオーシャンコミュニティにも大きな変化があった。ビッグサイエンス&ナショナルプロジェクトをスローガンに掲げてはじまった日本の海洋開発も、地域振興プロジェクトや県民の海、市民の海プログラムなどと多様化し、北西太平洋中心であった日本の海洋研究も、北極海へ、熱帯海洋へとグローバル化をとげ、フロンティアでは多国籍研究者の共同作業が日常化するようになった。

にもかかわらず、海外のオーシャンコミュニティの集まりに出かけて戻ってくると、まだ何か足りないと感じることがある。日本の海には壁がある？物理的な壁ではない。領海やEEZにはりめぐらされた万里の長城ではない。行政の壁、業界の壁、ディシプリンの壁、産学官の間の壁が縦割りの風土に居心地よく遺る。このところずいぶん低くはなったし、完全撤去する必要は必ずしもないかもしれないが…。

コンベンションとしてのテクノオーシャンは1986年の旗上げ以来15年余、産学官の交流空間創出を目標に今日まで進化してきた。時として逆風にさらされることがあったし、現在も安泰という訳ではない。しかし、「聖壁なき交流」こそまさに21世紀を迎えた日本のオーシャンコミュニティが必要としているものではないだろうか。発足したネットワークは規模こそ小さいが、壁をこえる交流を力に、高い志を抱いて、明日の日本の海洋世界構築に貢献しようではないか。

テクノオーシャン・ネットワークのご紹介

平成12(2000)年12月5日、テクノオーシャン・ネットワークが誕生しました。

これは、1986年より8回の開催実績を有する海洋の科学技術に関する国際コンベンション「テクノオーシャン」で長年築かれてきたネットワークをもとに誕生した組織です。

環境問題、資源エネルギー問題、食糧問題など地球レベルの諸問題に対し、私たちはその解決を海に求めざるを得ない時代を迎えており、まさに21世紀は海洋に託された世紀と申し上げても過言ではありません。海といかに共存共栄していくか…これは、海洋の幅広い多様な分野にたずさわる産官学関係者がともに考え、議論を深め、取り組んでいかねばならない問題です。そのためには、共通の問題に直面している関係者が、それぞれ専門分野、業種といった垣根を越えて互いに理解を深め、情報を交流・共有し、広い視点から議論することがまず求められます。

このように幅広い分野におよぶ問題を議論する場、広く海洋に関わる人と情報の交流の場として、また次世代を担う青少年の育成に関わる活動組織として、我が国はもとよりアジア太平洋を代表する海洋関係者ネットワークとして、本会を発展させていきたいと考えております。

皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

◆名称 テクノオーシャン・ネットワーク (Techno-Ocean Network : TON)

◆設立 平成12(2000)年12月5日

◆目的 海洋関連の科学技術に携わる産官学関係者の総合的、横断的なネットワークおよびパートナーシップの構築をはかり、もって海洋の科学技術、海洋産業の発展に寄与するとともに海洋の科学技術に関する市民の理解増進に貢献することを目的とします。

◆事業 国際コンベンション「テクノオーシャン」の開催をはじめ、海洋の科学技術に関する総合的な情報発信およびそれに関連する事業等を実施いたします。

◆会員 メンバー：本会の目的に賛同しこれをご支援いただく個人・団体のうち、会員の推薦により理事会で承認された方。総会における議決権を有します。(会費口数によらず1個人または1団体につき議決権は1とします。)

個人	年度1口	3,000円
団体	年度1口	9,000円

アソシエイト・メンバー：本会の目的に賛同しこれをご支援いただく個人・団体。特に入会資格を問いません。本会が実施する各事業にご参加いただくとともに、本会の資料及び情報をご提供いたします。

個人	年度1口	1,000円
団体	年度1口	3,000円

◆特典

- 国際コンベンション「テクノオーシャン」国際シンポジウム参加登録料の会員割引制度をご利用いただけます。
- TON主催の各種事業、行事等に、優先的に参加いただけます。
- 会員情報誌「Techno-Ocean News」のほか、ホームページともども、会員相互の交流、情報交換の場としてご利用いただけます。

◆役員リスト
(平成13年6月現在、五十名順)

役職	氏名	所属
会長	大庭 浩	海洋科学技術センター会長
副会長	平野 拓也	海洋科学技術センター理事長
	藤野 慎吾	財団法人日本港湾協会会長
	笹山 幸俊	財団法人神戸国際観光コンベンション協会会長、神戸市長
理事長	酒匂 敏次	東海大学海洋学部教授
理事	奥山 文雄	財団法人港湾役機械化協会会長
	近藤 健雄	日本大学理工学部教授
	中原 裕幸	財団法人海洋産業研究会常務理事
	細田 龍介	大阪府立大学工学部教授
	堀田 平	海洋科学技術センター企画部企画課長
監事	吉田 宏一郎	東海大学海洋学部教授
	原 潔	神戸商船大学学長

平成13(2001)年度事業計画

1. 組織体制整備事業

- (1) 組織運営に関する各種規程の整備
- (2) 本会の設立にかかる普及広報活動
- (3) 情報発信機能の確立

① ニュースレターの発行

会員情報誌としてニュースレター「Techno-Ocean News」を定期的に発行

② ホームページの開設

本会の活動状況を会員・非会員を問わず広く情報を発信受信するためにホームページを開設

2. 青少年啓発事業

青少年の海に対する夢や関心を育むため、海洋の科学技術に関するイベントを実施

3. 国際コンベンション「テクノオーシャン」関連事業

「テクノオーシャン2002」、「OCEANS/Techno-Ocean 2004」の開催準備

「テクノオーシャン2002」開催のご案内

日時：平成14(2002)年11月20日⑧～22日⑨3日間(関連事業として青少年向けイベントを11月23日⑩⑪に開催)

会場：神戸国際展示場(神戸ポートアイランド内)

主催：テクノオーシャン・ネットワーク(TON)

海洋科学技術センター(JAMSTEC)

(財)神戸国際観光コンベンション協会(KCVA)

特別協力(予定)：(財)日本港湾協会、日本財団、関西造船協会、神戸市

内容：国際見本市

海洋の調査・観測、環境、資源・エネルギーの開発利用、

海洋・海域の空間利用等に関する新しい製品・技術・システムの国際見本市

国際シンポジウム

基調講演、スペシャルセッション(オーガナイズドセッション)、テクニカルセッション、ポスターセッション(公募論文セッション)

学術研究団体展

国内外で最先端の海洋科学技術の研究開発に携わる大学・機関・団体が、パネルや模型、カタログ等の展示により日頃の活動や研究成果を発表する場

青少年向けイベント

青少年や一般市民の方を対象とする、船の一般公開、体験学習会、科学実験教室、講演会等(当事業のみ11月23日⑩⑪に開催予定)

同時開催行事

後援・協賛団体主催の講演会、シンポジウム、セミナー等



テクノオーシャン2000の会場



セミナー

国際コンベンション「テクノオーシャン」開催実績

名称	第1回 テクノオーシャン '86	第2回 テクノオーシャン '88	第3回 テクノオーシャン '90	第4回 テクノオーシャン '92 (※1)
会期	昭和61年11月19日(水)～22日(土)	昭和63年11月16日(水)～19日(土)	平成2年11月14日(水)～17日(土)	平成4年10月21日(水)～24日(土)
テーマ	海洋ルネッサンス、いま、海への挑戦	海と人と都市との共生	21世紀・知的産業化時代における海洋開発の展望	海は21世紀の情報インフラ
構成	国際海洋開発・港湾建設展/ 国際シンポジウム	国際海洋・沿岸開発展/ 国際シンポジウム	国際海洋・沿岸開発展/ 国際シンポジウム	国際海洋・沿岸・港湾開発展/ 国際シンポジウム
同時開催 関連行事	◇ テクニカルビジット ◇ 船の一般公開 「第50吉田号」「第52光号」 「清水船ベル」	◇ テクニカルビジット ◇ 関連8学会 ・海洋気象学会 ・船用機関学会 ・21世紀沿岸都市経営研究会 ・国際マシナリー・エンジニアリング ・造船三学会連合大会 ・土木学会海洋開発分科会 ・日本航海学会 ・造船学会編纂委員会 ◇ 船の一般公開 「天眞丸」「深江丸」「波風丸」 「海技丸」「光洋丸」「なつしま」	◇ テクニカルビジット ◇ 21世紀沿岸都市経営研究会 ◇ 日本海洋学会秋季大会 ◇ '90建機WJACOBEE ◇ 船の一般公開 「しんかい6500」「よこすか」 「明洋」「深江丸」「おおとり」	◇ テクニカルビジット ◇ 船の一般公開 「しんかい6500」「よこすか」 「日本丸」「花洋」

名称	第5回 テクノオーシャン '94	第6回 テクノオーシャン '96	第7回 テクノオーシャン '98	第8回 テクノオーシャン2000(※2)
会期	平成6年10月26日(水)～29日(土)	平成8年10月23日(水)～25日(金)	平成10年11月25日(水)～27日(金)	平成12年11月9日(木)～11日(土)
テーマ	海は生命と文化のインキュベータ	グローバルオーシャン・ネットワークの形成へ向けて	21世紀の扉を開く海洋～人類と海との共生を探る～	海洋に託す21世紀
構成	国際海洋・沿岸展/ 国際シンポジウム	国際海洋・環境展/国際港湾・物流展/ 国際シンポジウム	国際海洋・環境展/国際港湾・物流展/ 学術研究団体展/国際シンポジウム	国際見本市/学術研究団体展/ 国際シンポジウム/青少年啓発イベント
同時開催 関連行事	◇ テクニカルビジット ◇ 第24回国際海洋工学会議 ◇ TSL実験航海学会 ◇ 船の一般公開 「海洋」「紀淡丸」	◇ 記念講演会 「海を拓く新しい国土・メガポート」 ◇ テクニカルビジット ◇ 港湾技術研究所特別講演会 「一日造船の神戸」 ◇ 海洋技術開発セミナー ◇ 第17回国際コンテナ輸送講座 ◇ 第2回港湾荷役機械化協会講演会 ◇ 第2回港湾物流セミナー ◇ マリンフロント推進機構特別セミナー	◇ 記念講演会 「21世紀の扉を開く北極海航路～国際北極海航路開発計画 INSROP～」 ◇ テクニカルビジット ◇ 海洋技術開発セミナー ◇ 第4回港湾物流セミナー ◇ 神戸市港湾整備局講演会 ◇ 運輸省船舶技術研究所講演会 ◇ 第2回大型浮体構造物セミナー ◇ (財)日本船舶機関学会学術講演会 ◇ 船の一般公開 「かいらい」	◇ 記念講演会「海と日本人」 ◇ (社)土木学会海洋工学講演会 ◇ 海洋深層水利用研究会研究発表会 ◇ (財)港湾開発技術研究所技術講演会in神戸 ◇ 運輸省港湾技術研究所特別講演会 「一日造船の神戸」 ◇ 第5回港湾物流セミナー ◇ ハイテク船の講演会 ◇ 運輸省船舶技術研究所講演会 ◇ 深層水資源に関するシンポジウム ◇ 第3回大型浮体構造物セミナー ◇ オイルスピル・緊急対応シミュレーション公開演習 ◇ 船の一般公開 「かいらい」「紀淡丸」 ◇ 青少年向けイベント 高校生のための海洋科学技術セミナー、科学実験教室、「深江丸」一日船長体験会、「なごさ海道」クイズ-表彰式ほか

※1 「テクノオーシャン '92」のみ横浜で開催。
これ以外はすべて神戸開催。

※2 第8回「テクノ・オーシャン2000」
【国際見本市/学術研究団体展】
国際見本市：52社・団体 86小間(うち海外2カ国)
学術研究団体展：35団体 44小間
特別出展：海洋科学技術センター 400㎡
展示会入場者数：15,897人
【国際シンポジウム】
セッション数：4会場・37セッション
論文数：175論文
参加者数：463人(うち海外6カ国(7カ国、件)「仏、ド、イ、米、韓、中」)

ご入会のお願い

本会の設立趣旨である、海洋関連の科学技術に携わる産官学関係者の総合的・横断的なネットワークおよびパートナーシップを構築するため、できるだけ多くの皆様にご参加いただきたいと考え、会費も低価格でお気軽にご参加いただけるよう設定いたしました。

ご入会ご希望の方は、別紙入会申込書にご記入のうえ、FAXまたはEメールで事務局あてに、ご返信ください。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

皆様の情報交流の場としてご利用ください

この「Techno-Ocean News」は、専門分野、業種の別を問わず、海洋関係者の横断的な情報交流・コミュニケーションツールとして創刊しました。

本誌面では、各学会、団体の講演会・セミナー開催情報あるいはトピックスの情報などをご紹介して、掲示板的役割も持たせたいと考えております。

そこで、読者の皆様から積極的な情報提供をお待ちしております。ご連絡はご遠慮なく右記事務局まで。

◆TONのホームページもまもなく開設する予定です。

Techno-Ocean News No.1 (創刊号)

2001年9月発行(年4回)

発行 テクノオーシャン・ネットワーク

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目11-1

㈱神戸国際観光コンベンション協会内

☎078-303-7516 ☎078-302-1870

e-mail: techno-ocean@kcvn.or.jp

ロゴ&表紙ヘッダーデザイン：東 恵子(東海大学短期大学部助教授)